

## 【9】原始仏教聖典資料の処理方法

〔1〕 上述してきた如く、原始仏教聖典には〈釈尊の生涯イメージ〉と〈釈尊教団形成史イメージ〉が豊富に盛り込まれていることが納得されるであろう。

しかし問題はその処理方法である。基本的な処理方法の一端は上記のとおりであり、実地に提婆達多の破僧年＝阿闍世王の即位年についてのシミュレーションも行ってみた。情報はあふれるばかりにあり、さらにそれらが網の目のように輻輳し、関係しあっているから、その処理を我々の小さな頭でこなすことは極めて困難である。そのために本研究ではコンピュータを最大限に利用するという方針をとっている。

現段階は、【資料2】で紹介するように1万件を越えるデータを、【資料1】で紹介するような「釈尊伝データ」フォーマットに打ち込み終わったところである。

〔2〕 次の段階はこれらデータをどのように処理するかであるが、現時点で考えている処理方法の基本は以下の通りである。

- (1) 祇園精舎などの寺院建設年、阿難などの出家年、マハーパジャーパティニーによる比丘尼の誕生年、阿闍世王の即位年、雨安居の制の制定年、飢饉年などの天変地異年、ニガンタナータプッタの死亡年など基準（スタンダード）となるべき年を確定する。
- (2) 確定した「スタンダード」を基準として、すべてのデータを同時経・以前経・以後経に仕分ける。スタンダードは徐々に増え、あるいは変更されて、確実なものとなっていくから、その都度即座に同時経・以前経・以後経が修正できるシステムを構築する。
- (3) 1つのデータには複数の「スタンダード」が関連しあうので、「スタンダード」の数が増えたある時点で、複数の同時経・以前経・以後経を組み合わせた、特定の時点を示すことのできるような欄を作成する。
- (4) 「スタンダード」を作成するためにも、人物・地名などの固有名詞ごとにデータを分類した「個別ファイル」を作成し、これをもとに善星や提婆達多において行ったような分析を行う。この際人名・地名欄の属性やコメントや歴史的記述、「内容概説」などから、コンピュータで処理できるような数字を与えて「ソート」機能によって、自動的に時系列順に配列されるようにデータを加工する。
- (5) これによって、人名・地名別に時系列順に事項を並べた簡単な「各伝」をコンピュータ上に作成する。
- (6) 当該の「各伝」の事項と、そこに登場する密接に関係しあう人名・地名の「各伝」の事項とをリンクさせることにより、より正確な順序と出来るかぎり精度の高い年度を推定する。この際合理的に配列できない「エラー情報」を警告させるシステムも構築する。
- (7) 上記情報をこれらを統合する「釈尊年表」とリンクさせる。この年表は「釈尊年齢（入胎からの満年齢）」「出胎からの数え年齢」「成道年数」「入滅日からの逆算年齢」「事項」「人物」「地名」「同時経」「以前経」「以後経」などが書き込めるフォーマットとする。

- (8) 上記の作業は互いに関連しあうので、常にそれぞれがリンクしあうシステムを構築する。（自動的に修正されるのが理想であるが、少なくともある事項が修正されたときには、それによって修正しなければならない関連する事項が自動的に警告されるようなシステムを構築する）
- (9) これをもとに「釈尊伝」「時系列による原始聖典目録」を作成する。

[3] 以上はかなり高度で複雑なシステムとなることが予想される。既存のソフトを応用することで処理できるか、新たにソフトを開発しなければならないかはわからないが、いずれにしてもそのシステムの構築については専門家の力を借りなければならないであろう。そのためには具体的にコンピュータにどんなことをやらせるかを十分に検討しておくとともに、より正確で多様な情報をデータに書き込んでおくことが当面の課題である。